

保育者養成における声楽指導に関する研究

A Study of How to Teach Songs to Children in the training of
Early Childhood Education Student Teachers.

多保田 治 江

Abstract

To search for better teaching techniques and materials in the training of early childhood education student teachers, I researched what the students think about musical score and what songs are well used in kindergartens and daycare centers.

I found that our students consider that a musical score, which is defined as “three-tiered musical score ㊸”, is difficult. I also found that there are some typical features in children’s musical scores.

It was efficient to include the songs that are well used in kindergartens and daycare centers in our curriculum, which is physically limited, so that the students can easily adjust themselves into realistic teaching scenes.

I would like to keep searching for better student teacher training methods, through which the students will enjoy music themselves.

はじめに

保育学科において「うたうこと」に関する授業は一年次に必修で「声楽Ⅰ」（通年、1単位）を履修する。この授業の内容は、保育者となる学生の声のトレーニング（呼吸法・発声法）、うたう楽しさを知ること、子どものうたを知ること、子どものうたの指導方法を学ぶことである。保育者の範唱を模唱し、反復するということの繰り返しによって、子どもたちは子どもがうたえるようになっていく。人的環境である保育者の役割は大きく、子どもたちの豊かな表現を援助していくための知識・技能・感性を身につける必要がある。筆者は保育者養成における声楽指導が幼稚園や保育園で有効であるためにはどのような教材・授業内容を必要としているのかについての調査を継続的に行っている。⁽¹⁾新しい子どもがうたをうたう場合、楽譜に対する視覚的側面と歌唱力というテクニックからの側面が影響すると考えられる。今回は子どもがうたの楽譜に対する意識調査と幼稚園や保育園でよくうたわれている子どもがうたの分析を通して保育者養成においてどのように声楽指導をすべきか検討することが目的である。

I. 子どもがうたの楽譜に対する学生の意識調査について

子どもがうたの楽譜を次の4種類に分けることとする。

- 一段楽譜 . . . あそびうたの楽譜によく見られるメロディだけの楽譜
- 二段楽譜 . . . 大譜表で書かれ、右手メロディ・左手伴奏の楽譜
- 三段楽譜 . . . メロディパートが一段と伴奏パートが大譜表で書かれた楽譜
 - ①伴奏パートの右手和音の上声部がメロディの楽譜
 - ②伴奏パートにメロディがない楽譜(少なくとも開始部にメロディがないもの)
例えば、コードに合わせ両手でリズムを刻むように書かれた楽譜

1. 調査方法

子どものうたの楽譜から受ける印象について、「声楽I」の授業を受講している保育学科一年生101名を対象に調査を行った。一段楽譜・二段楽譜・三段楽譜①・三段楽譜②を見てその印象を自由筆記する。

2. 結果と考察

一段楽譜	音程が取りやすく、うたいやすい	92
	4種類の楽譜の中で一番シンプルである	22
	伴奏がないと不安である	4
	前奏がないのでうたの開始音が取りにくい	2
二段楽譜	メロディがあるので、うたいやすい	55
	伴奏が入るとリズムがとりやすいので、うたいやすい	31
	伴奏が入ると、曲の雰囲気が掴めるので、うたいやすい	6
	三段楽譜の伴奏スタイルに比べて弾きやすいので、うたいやすい	11
三段楽譜①	メロディがあるので、うたいやすい	67
	伴奏が入ると、曲の雰囲気が掴めるので、うたいやすい	16
	伴奏が複雑になりメロディはあるもののうたにくい部分がある	13
	伴奏に和音も入り、音楽的に聞こえる	9
	三段楽譜は二段楽譜に比べて歌詞が見つらい	3
	二段楽譜と違い、伴奏譜に歌詞が入らないので見やすい	2
三段楽譜②	メロディがないので音程やリズムが取りにくい	83
	(メロディを把握した上で、伴奏と合わせる必要がある)	
	伴奏が入ると、曲の雰囲気が掴めるので、うたいやすい	22
	4種類の楽譜の中で一番音楽的に感じられる	11
	前奏にメロディがないのでうたの開始音が分かりにくい	9
	伴奏をつけてうたえた時は達成感が感じられる	2
	二段楽譜と違い、伴奏譜に歌詞が入らないので見やすい	1
	4種類の楽譜の中で一番指導者の役割が大きい	1

肯定的な意見が多い中で三段楽譜⑥に対しては否定的な意見が多かった。言い換えると、学生達は伴奏に頼ってうたっていることになる。子どものうたの楽譜に対する学生の意識調査を通して自分自身で音を取れるようにすることが必要であることが分かった。

Ⅱ. 子どものうたの楽譜分析

1. 分析対象曲

対象曲は保育現場でよくうたわれている子どものうたという視点で「よくうたわれている子どものうたベスト50」⁽²⁾を用いることとした。

2. 分析方法

楽譜の種類、音階の種類、拍子、小節数・コーラス数、リズムパターン、開始音、音域、音程関係について分析した。

3. 結果と考察

○楽譜の種類		メロディが伴奏にあるもの
一段楽譜	9曲	
二段楽譜	7曲	
三段楽譜④	20曲	29曲
	2曲*	メロディが伴奏にないもの
三段楽譜⑥	12曲	12曲
	計50曲	

*三段楽譜④と三段楽譜⑥の併用型・・・部分的にコードで書かれメロディがない

分析対象曲50曲の中でわらべうたやあそびうたは伴奏をつけてうたわないので、伴奏譜がある41曲の中でメロディが伴奏で演奏される子どものうたとそうでないものは7:3の割合であった。

○音階の種類

長音階	短音階	曲数
C dur		13
D dur		11
F dur		14
G dur		7
	c mol l	1
わらべうたの音組成		4
計		50

使用されていた音階の種類は、長音階・短音階とわらべうたの音組成であった。Fdur、Cdur、Ddurの子どものうたが38曲あり、全体の76%を占めた。短音階の子どものうたは「うれしいひなまつり」1曲だけであった。

○拍子

	拍子の種類	曲 数	
2拍子系	4分の2拍子	23	47
	4分の4拍子	23	
	8分の6拍子	1	
3拍子系	4分の3拍子	3	3
計			50

2拍子系の子どものうたが47曲(94%)あり、圧倒的に多かった。但し、8分の6拍子の子どものうたは「おもいでアルバム」1曲だけであった。3拍子系の子どものうたは「こいのぼり」、「うみ」、「ありさんのおはなし」の3曲であった。

○小節数・コーラス数

小節数×コーラス数		曲 数						
6×1	1	1						
7×1	1	7×2	1	2				
8×1	4	8×2	2	8×3	4	8×5	1	11
10×1	1						1	
12×1	4	12×2	8	12×3	2	12×4	1	17
12×5	1	12×6	1					
14×5	2						2	
16×1	5	16×2	1	16×3	2	16×7	1	9
17×2	1						1	
20×3	1	20×5	1				2	
24×1	1	24×3	1				2	
32×1							1	
34×2	1						1	

幼稚園や保育園では子どものうたを指導する時、保育者が子どもたちの前で範唱することによって曲の雰囲気・メロディ・リズムなどを子どもたちは掴む。範唱のために保育者は楽譜を暗譜しなければならないが、小節数やコーラス数も指導のための準備に影響を与える。1コーラス6小節の中でうたの持ち味を表現しなくてはならない「げんこつやまのたぬきさん」から1コーラス16小節を7コーラス計102小節かけてうたう「おもいでアルバム」までであった。小節数が4の倍数で作られた子どものうたが42曲(84%)であったことが特徴である。

○リズムパターン

パターン数	曲 数	パターン数	曲 数
2	3	7	9
3	9	8	4
4	11	9	2
5	7	13	1
6	4		
計			50

まず曲別に使用されているリズムパターンを調べた結果、「とんとんとんひげじいさん」

(12小節)、「ありさんのおはなし」(16小節)、「こぶたぬきつねこ」(16小節)のリズムパターンが2パターンだったのに対して、「さんぽ」は20小節の曲であるが13のパターンが用いられていた。

次に、拍子別にリズムパターンを調べた。1曲中に同じリズムパターンが現れても1回として扱った。4分の2拍子の子どもものうたには33種類のリズムパターン、4分の4拍子の子どもものうたには78種類、4分の3拍子の子どもものうたには5種類のリズムパターンが用いられていた。4分の2拍子と4分の4拍子の曲数が同じであったにもかかわらず、4分の4拍子のリズムパターンが分散化した状態だった。

4分の2拍子で多いリズムパターン (23曲中)

① 18 ② 14 ③ 11 ④ 9 ⑤ 7

⑥ 6 ⑦ 5 ⑧ 4 ⑨ 4 ⑩ 3 ⑪ 3

4分の4拍子で多いリズムパターン (23曲中)

① 8 ② 7 ③ 5

④ 5 ⑤ 5 ⑥ 4

⑦ 3 ⑧ 3 ⑨ 3

⑩ 3 ⑪ 3

4分の3拍子で多いリズムパターン (3曲中)

① 3 ② 2 ③ 2

○開始音と音域

開始音 9 6 6 7 2 7 7 1 1 計46曲

わらべうた 4曲

わらべうたを除く46曲中で、最も音域の広い子どものうたは、「雨ふりくまの子」、「大きな古時計」、「いぬのおまわりさん」、「とんでったバナナ」の4曲があり1オクターブと短3度の隔りがあった。最も狭いのは「おしょうがつ」、「チューリップ」、「ちいさなにわ」、「あくしゅでこんにちは」の4曲で長6度の音域であった。

メロディの開始音では c^1 (9曲) が最も多く、次いで $f^1 \cdot g^1 \cdot a^1$ (7曲)、 $d^1 \cdot e^1$ (6曲) の順であった。

授業において学生の声域が狭く高音がうたいづらそうに感ずるが、 c^2 から始まる子どものうたも1曲「雪こぼうず」があった。

○音程関係

分析方法はメロディ各2音間の音程において完全1度の関係を0とし、短2度の関係を0.5という数値で隔たりを示した。

音程の使用頻度

音程	使用頻度	使用率
0	763	32.5
0.5	225	9.6
1	743	31.7
1.5	252	10.7
2	118	5.0
2.5	150	6.4
3	0	0
3.5	56	2.4
4	10	0.4
4.5	22	0.9
5	4	0.2
5.5	0	0
6	4	0.2
総数	2347	100.0

保育者養成における声楽指導に関する研究

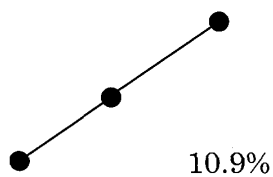
		3音間の音程関係のクロス集計																								
音程Ⅱ	音程Ⅰ	-6	-5.5	-5	-4.5	-4	-3.5	-3	-2.5	-2	-1.5	-1	-0.5	0	0.5	1	1.5	2	2.5	3	3.5	4	4.5	5	5.5	6
6											1			3												
5.5																										
5														1												
4.5									4		4		4	1												
4										2		3	3													
3.5						2		1		3	5		13		2											
3																										
2.5						2		7	3	9	14	4	46		5	1	5									
2				3				7		12		10	6		14		6									
1.5	1				1	4		4		26	6	8	28		11		2	11								
1				4		8		6	21	1	63		93	40	75	21		4		2						
0.5			3					5		3		20	15	2	35		6			1						
0				1	1	7		12	14	41	118	37	304	27	94	22	16	42		9	5	5				
-0.5						4		10		51	4	26	17	2	7	2				1						
-1						3		12	1	40	87	39	90	1	79	2	12	11		8			1			2
-1.5				1				14		38	1	40	6	4	25	1	5					2				
-2								1		3		8	21		16		12	3		1	1					2
-2.5										3	3		22		5	7		5					3	1		
-3																										
-3.5													9		5		1	10					1			
-4													2													
-4.5													6									2		1		
-5																			2					1		
-5.5																										
-6																							1			
		※音程Ⅰ 3音間の1-2の音程												音程Ⅱ 3音間の2-3の音程												

同音の繰り返しである音程関係0（完全1度）と音程関係1（長2度）が多く使用されており、両者で全体の64.2%を占めた。また、音程関係0から2.5（完全4度）までの使用率が95.9%であったことは子どものうたがあまり跳躍しない音程でつくられていることが分かる。音程関係3（増4度）と音程関係5.5（長7度）の音程は使用されていなかった。前回の調査⁽¹⁾と違う点は、生活・遊びのうたの範疇にあそびうたを含めたので音程関係0の使用頻度が高かったことである。

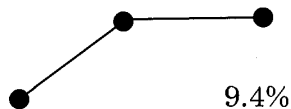
次に、メロディを構成する3音間の音程関係を調べ集計を行った。これは3音の流れの特徴を掴むためである。メロディラインの上昇はプラス、下降はマイナスとして分析した。メロディを構成する3音間の音程関係は①上昇 → 上昇、②上昇 → 同音、③上昇 → 下降、④同音 → 上昇、⑤同音 → 同音、⑥同音 → 下降、⑦下降 → 上昇、⑧下降 → 同音、⑨下降 → 下降の9パターンがあり、今回の50曲（「これくらいのおべんとぼこに」はとなえうたであるので除く）を分析した結果が次である。

音程9パターンの使用頻度

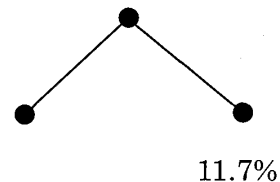
① 2 5 0



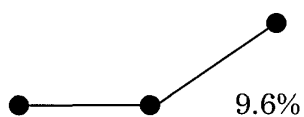
② 2 1 6



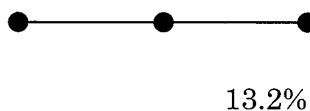
③ 2 7 0



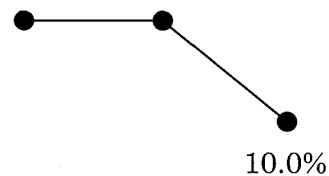
④ 2 2 0



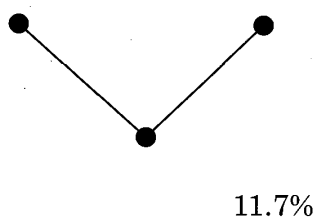
⑤ 3 0 4



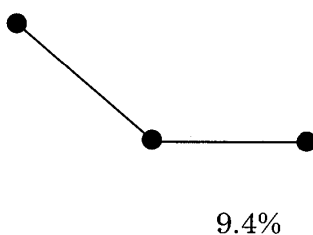
⑥ 2 3 1



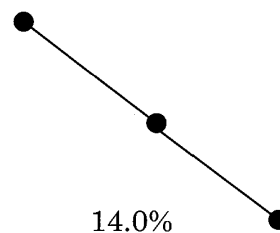
⑦ 2 6 9



⑧ 2 1 6



⑨ 3 2 3



3音の流れが下降する⑨のパターンと同音の⑤パターンが多く使用され、反対に上昇して同音に進む②パターンや下降して同音に進む⑧パターンが少なかった。

音程の隔たりが広い子どものうたは次の18曲であった。

音程の隔たりが広い子どものうた

曲名	音程 I	音程 II	使用音名
バスごっこ	- 6	+ 3. 5	$c^2 - c^1 - g^1$
バスごっこ	- 5	+ 2. 5	$b^1 - c^1 - f^1$ (2回)
コンコンクシャンのうた	- 5	+ 4. 5	$b^1 - c^1 - a^1$

保育者養成における声楽指導に関する研究

バスごっこ	-4. 5	0	}	$a^1 - c^1 - c^1$
コンコンクシャンのうた	-4. 5	0		
しあわせならてをたたこう	-4. 5	0		
ふしぎなポケット	-4. 5	0		$h^1 - d^1 - d^1$ (3回)
バスごっこ	-4. 5	+3. 5	}	$a^1 - c^1 - g^1$
コンコンクシャンのうた	-4. 5	+3. 5		
ジングルベル	-4. 5	+4. 5		$h^1 - d^1 - h^1$
どんぐりころころ	-4	0		$c^2 - e^1 - e^1$
雨ふりくまの子	-4	0		$a^1 - cis^1 - cis^1$
雪のペンキやさん	-3. 5	+4. 5		$g^1 - c^1 - a^1$
おばけなんてないさ	-2. 5	+4. 5		$g^1 - d^1 - h^1$ (3回)
ジングルベル	-2. 5	+5		$a^1 - e^1 - d^2$
さんぼ	-2	+4	}	$e^1 - c^1 - as^1$
さんぼ	-2	+6		$e^1 - c^1 - c^2$
先生とおともだち	-2	+6		
バスごっこ	-1. 5	-4. 5		$c^2 - a^1 - c^1$
さんぼ	-1. 5	+4		$g^1 - e^1 - c^2$
あわてんぼうのサンタクロース	-1	+4. 5		$g^1 - f^1 - d^2$
こいのぼり	-1	+6		$e^1 - d^1 - d^2$
うれしいひなまつり	-1	+6		$d^1 - c^1 - c^2$

多保田 治 江

コンコンクシャンのうた	0	-4. 5		$a^1 - a^1 - c^1$
雨ふりくまの子	0	-4		$a^1 - a^1 - cis^1$
ジングルベル	0	+4	}	$e^1 - e^1 - c^2$ (2回)
てをたたきましょう	0	+4		
きのこ	0	+4		$d^1 - d^1 - b^1$ (2回)
ジングルベル	0	+4. 5		$d^1 - d^1 - h^1$ (2回)
まつぼっくり	0	+4. 5	}	$c^1 - c^1 - a^1$
きのこ	0	+4. 5		
しあわせならてをたたこう	0	+4. 5		
バスごっこ	+0. 5	-5	}	$a^1 - b^1 - c^1$ (2回)
コンコンクシャンのうた	+0. 5	-5		
バスごっこ	+1	-4. 5	}	$g^1 - a^1 - c^1$
コンコンクシャンのうた	+1	-4. 5		
ジングルベル	+1	-4. 5		
バスごっこ	+1. 5	-6		$a^1 - c^2 - c^1$
どんぐりころころ	+1. 5	-4		$a^1 - c^2 - e^1$
ふしぎなポケット	+2	-4. 5		$g^1 - h^1 - d^1$ (3回)
きのこ	+4	-1. 5		$d^1 - b^1 - g^1$
アイスクリーム	+4	-1. 5		$e^1 - c^2 - a^1$
さんぼ	+4	-0. 5	}	$e^1 - c^2 - h^1$
ジングルベル	+4	-0. 5		
さんぼ	+4	0		$c^1 - as^1 - as^1$
てをたたきましょう	+4	0		$e^1 - c^2 - c^2$
きのこ	+4	0		$d^1 - b^1 - b^1$

保育者養成における声楽指導に関する研究

おばけなんてないさ	+4. 5	-2	$d^1-h^1-g^1$ (3回)
まつぼっくり	+4. 5	-2	$c^1-a^1-f^1$
ジングルベル	+4. 5	-1	$d^1-h^1-a^1$ (4回)
あわてんぼうのサンタクロース	+4. 5	0	$f^1-d^2-d^2$
雪のペンキやさん	+4. 5	0	$c^1-a^1-a^1$
きのこ	+4. 5	0	
しあわせならてをたたこう	+4. 5	0	
コンコンクシャンのうた	+4. 5	+0. 5	$c^1-a^1-b^1$
ジングルベル	+5	0	$e^1-d^2-d^2$
先生とおともだち	+6	-1. 5	$c^1-c^2-a^1$
こいのぼり	+6	0	$d^1-d^2-d^2$
うれしいひなまつり	+6	0	$c^1-c^2-c^2$
さんぽ	+6	0	

広い音程の数	曲数	曲名
14	1	26 ジングルベル
10	1	3 バスごっこ
7	1	22 コンコンクシャンのうた
6	4	9 さんぽ 23 おばけなんてないさ 35 きのこふしぎなポケット
2	8	1 こいのぼり 2 うれしいひなまつり 7 あわてんぼうのサンタクロース 13 どんぐりころころ 17 雨ふりくまの子 24 まつぼっくり 27 雪のペンキやさん 32 先生とおともだち
1	3	29 てをたたきましよう 41 しあわせならてをたたこう 42 アイスクリーム

※曲名の前の数字はよくうたわれる子どものうたの順位である

多保田 治 江

クリスマスシーズンに多くの園でうたわれている「ジングルベル」は跳躍音程が14箇所、子どもたちの身近な乗り物であるバスを題材とした「バスごっこ」は跳躍音程が10箇所あった。

おわりに

保育者養成における子どものうたの指導のあり方や望ましい教材の方向性を探るために、学生の子どものうたの楽譜に対する意識調査と幼稚園や保育園でよくうたわれている子どものうたの分析を行った。その結果、三段楽譜⑧と定義した楽譜に対してうたうことの困難さを感じていることが分かった。言い換えると学生達は伴奏に頼ってメロディをうたう傾向にあるので、自分自身で音を取れるようにすることが必要であることが分かった。また、子どものうたの楽譜を分析することによって楽譜の種類、音階の種類、拍子、小節数、コーラス数、リズムパターン、開始音、音域、音程関係の特徴を知ることができた。

限られたカリキュラムの中で保育現場が求めている内容に適応するためには保育内容に近い要素を含んだ教材を用いることが有効である。これからも音楽を自らも楽しむことができる保育者の育成について考えていきたい。

引用・参考文献

- 1) 多保田治江「保育者養成における子どものうたの取り扱いについて (2)」『北陸学院短期大学紀要』第26号
1994年 p.55-74
- 2) 多保田治江「保育者養成における子どものうたの取り扱いについて (4)」『北陸学院短期大学紀要』第36号
2004年 p.13-28
- 3) 小林美実編『幼児のうた楽譜集』東京書籍